

藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's
University
Library

新人生
歓迎号

No.93
2017.4

1. 電子辞書を前にして思うこと
…………… 図書館長 渡邊 浩
3. 図書館システムが新しくなりました
4. はじめての“学生選書ツアー”開催!
6. 石狩市の中学生を受け入れました
7. 花川館エリア分け開始について
図書館委員会からのお知らせ
8. 図書館資料Navi 第9回
絵本・児童書を「見」てみましょう
…………… 文化総合学科 平井 孝典

CONTENTS



電子辞書を前にして思うこと

藤女子大学図書館長 渡邊 浩

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。それから、在学生のみなさん、気持ちを新たに新学期をお迎えてしょうか。さて、学期の始まりは、授業や研究と関連するいろいろな本を購入する季節かと思いますが、電子辞書を買ったという方もいるかもしれません。実際、授業で英語の辞書を持ってくるよう指示すると、最近では電子辞書を持って来のが普通になりました。そういう私自身も数年前から複数の外国語に対応した電子辞書を使うようになってきました。一台で何冊もの辞書を持ち運べるのはとても便利です。電子辞書ですから、スペルを打てば直接目当ての単語にたどり着きます。挙げられた例文に見慣れない単語があれば、その意味へとジャンプすることもできます。もちろん戻ることもできます。さらに異なる辞書間での行き来も可能です。履歴から、既に引いた単語を引き直したり、さらに引いた単語から単語帳が作れたり、自分だけの辞書となるような学習機能も備わっています。便利さの反面、回り道をしているうちに思いがけない単語に出会うとか、最初に開いたページに目当ての単語を見つけるとか、紙の辞書ならではの楽しみは失われてしまいました。また、電源が切れたり故障したときには、辞書とは言え、電子機器でもあったことを改めて思い知らされたりもします。電子書籍全般に関しては、その普及の速度は思ったよりゆっくりと感じていますが、学習用の辞書に限ると、電子化、デジ

タル化への転換速度は著しく速く感じます。では、この先、本や本の世界はどうなるのでしょうか。未来のことはさておいて、本をめぐる歴史のなかで、私たちが再び大転換のなかにいるということは間違いのないなさそうです。

古代オリエント世界において書写素材として広く使われたのは粘土板やパピルスでした。粘土板はミケーネ文明でも使用されましたが、その後のギリシア・ローマ世界で広く用いられたのはパピルスです。したがってホメロスの『イリアス』やリウィウスの『ローマ建国以来の歴史』などのパピルス写本が現存していても不思議ではありません。書写材料としてのパピルスは、パピルス草の茎から皮を剥がし、髄の部分の部分を帯状に薄く切って作ります。帯状のものを板の上に並べ、さらに垂直に交差するようにもう一層重ねて並べ、貼りつけて乾燥させます。繊維が縦方向に走る面と横方向に走る面ができますが、葦のペンで抵抗なく書ける横方向の面が表となります。これを何枚も横につなぎ合わせ、表を内側にして巻物状にして作った本が巻子本^{かんすほん}です。大きさは縦が20から30センチ、横は作品の長さに応じて4、5メートルから10メートル以上にも達しました。現在の本のページを左から右へと並べて巻いたイメージでしょうか。しっかりと作られた巻子本は、両端に軸棒が取り付けられ、軸棒に巻かれた本を右手に持ち、左手でもう一方の軸棒を持って開き、読み終えた箇所を左手の軸棒で巻

き取りながら読み進みます。どこかカセットテープやビデオテープのようです。

3世紀から5世紀にかけて、徐々にこの卷子本に取って代わったのが冊子本です。冊子本は紙葉を重ね合わせて閉じた今日の形態の本です。書写素材は羊皮紙と総称されますが、羊に限らず、山羊や子牛などの動物の皮から加工して作られます。早い事例としては、既に1世紀末に詩人マルティアリスが冊子本に言及しています。しかし、冊子は学校でノートやメモ帳として使われていたという経緯から、古典作品を収める形態としてはふさわしくないとする知識階層のメンタリティーがその普及を遅らせたと考えられます。とはいえ、冊子本が卷子本に対して持った数々の利点が、その利用を促しました。まず、冊子本は卷子本と違って両面とも使用できたので容量が大きいです。卷子本では12巻を要するウェルギリウスの『アエネイス』は、冊子本だと1冊に収まります。キリスト教徒も聖書にはもっぱら冊子本を用いています。それから、扱いが楽です。読み終えた後で巻き戻す必要もなく、後から参照したい箇所を探すのも容易です。コンパクトであり、両手で持たずにすみます。卷子本から冊子本への転換とともに、既存の作品の写し替えも行われましたが、全ての作品が書き写されたわけではなく、選択基準は当時の嗜好や評価に左右されました。そのためアリストパネスの喜劇作品のうち4分の3が失われることになったといえます。また、カエサル、キケロ、ウェルギリウス、ホラティウスなど、ラテン語を学ぶ上での有用性が認められたものもあります。結局、選択の対象からもれた作品は永遠に失われる運命にありましたが、運良くパピルス写本で生き残ったものもあります。

古代から中世への転換の時代、冊子本の作成は主に修道院の仕事となりました。修道院には図書室や写字室が備えられ、筆写作业は修道士の修業の一環でした。修道院は羊皮紙に必要な家畜を大量に飼育する所領も持っていました。ヨーロッパの大陸側が民族大移動の混乱にあった頃、古典文化の保存・維持に大きな役割を果たしたのはアイルランド



ケルズの書 本制作上の革新を見落とす

ことはできません。彼らは、1枚のページにたくさん書くことができ、筆記や判読に適した小文字を考案していきました。これが現在使用されている小文字の起源、カロリング小文字書体へと結実します。また、彼らが導入した「分かち書き」や「句読記号」は文字の改良とともに読みやすさを向上させ、

知識人の読書方法を音読から黙読へと変えてゆく大きな契機となりました。古代では、弁論術の重視もあって、それまでは音読が主流でした。そもそも単語、文章、パラグラフの間にスペースを設けない従来の「連続記法」が黙読に向かないことは、くとうてもなくひらがなのみでつづったにほんごをよむことをそうぞうすればよいにさっしがつきます（と、こんな感じでしょうか）。本と読者の間にプライベートな関係を作り出すことになる黙読は、近代に向かって支配的な読書方法となっていくます。

15世紀中葉のグーテンベルクによる印刷術の改良が本の世界に一大変革をもたらしたと、ほぼ同時期に展開した人文主義や宗教改革の運動を強力に後押ししたことを否定する者はいないでしょう。しかし、急にすべてが変わったわけでもなさそうです。価格が下がったとはいえ本が贅沢品であることに変わりはありませんでした。写本をそのまま印刷によって再現したり、紙ではなく羊皮紙に印刷したりすることもありました。また、蔵書として写本のみをこだわり続ける者たちもいました。購入者が自分で立派な装幀を施せるようにと、仮綴じのまま



福音書画伝 印刷術の改良は最終的に

は読書の民主化・個人化をもたらしますが、それは識字率の上昇と読者層の拡大とともに実現するのであり、さらにそのためにはカトリック・プロテスタント双方による聖職者自体の識字能力を高める努力と信徒への教理教育、フランスの青本叢書やイギリスのチャップブックといった出版業者による民衆向け出版物の企画、貸本屋や図書館の出現、啓蒙主義による有益な読書の奨励など、もう数百年にわたる様々な試みが必要でした。

本の歴史を振り返ってみたらといて、未来を見通せる訳ではありませんが、参考になることはあります。新しい形態の本が好まれた理由や、古い作品が生き残ってきた理由など。また、「新しい技術」に対して「本はこうあるべし」といった抵抗意識はつねに見られました。今日でも、従来の本へのこだわりが電子化への大きな抵抗要因の一つでしょう。では、電子辞書の普及はどういうことなのでしょう。辞書は本へのこだわりとあまり関わらないところに位置するのでしょうか。そもそも辞書は本とは少し違う。読み物ではなく、調べる道具である。学習に使う教材である。電子辞書は本ではなく機械である。こんな考えもあるかも知れませんが、みなさんはどう思いますか。

図書館システムが新しくなりました！

図書館では春休み中にシステムの更新を行いました。
貸出手続等に変更はありませんが、資料の更新にも学生証が必要になりましたので、忘れずに持って来てください。では、新しくなったところをいくつかご紹介します。

① OPACが使いやすく便利になりました！



学内の資料だけでなく、学外の資料も検索できるようにしました。

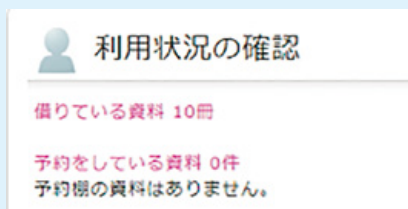
検索結果では、本の表紙を画面で確認できるようになりました。

気になる資料をチェックして、ブックマークに登録することもできます。

OPACのアドレスが変わりました！
<https://webopac.fujijoshi.ac.jp/>



② マイページがさらに充実！



自分の借りている資料や予約状況の確認などが一目でわかるようになりました。

また、登録したブックマークを「マイフォルダ」から確認することもできます。

③ その他、新しいサービスも！

返却日前日にお知らせメールが届きます。これでうっかり返却を忘れるなんてこともなくなりますね！！

また、新しいサービスとして専用アプリが登場します。スマートフォンからの利用も便利になる予定です。詳しくは閲覧カウンターにお尋ねください。

※スマートフォン画面は開発中のものです。



はじめての“学生選書ツアー”開催!

2016年11月12、13日、三省堂書店札幌店にて、本学ではじめての学生による“選書ツアー”を実施しました。図書館に入れたい本を学生が書店店頭で直接選ぶという企画で、全国的に多くの大学で行われており、近隣の大学からも、学生の目で選んだ本は利用がとても多いということを聞いていました。

大学図書館の蔵書は、大学の財産として蓄積され、未来へ受け継がれていきます。どんな本が選ばれるのか少々不安もあったのですが、学内で了承を得て、参加者を20名募集することになりました。

最終的には、文学部9名、人間生活学部11名、大学院生1名の合計21名の学生さんの参加で、無事実施することができました。当日は三省堂書店に集合し、説明を聞いた後、各自目当ての本を棚から抜き取ってブックラックに並べていきました。

平均すると一人あたり10冊ほどの選書になりましたが、



選書ツアー時のようす



相談しながら選んでいます

事前説明会で大学図書館の蔵書としてふさわしい本という事でお願いしたせいか、実際選ばれた本でお断りしたものはなく、卒論やゼミに必要な本や語学の本、パソコン関係、ややマニアックな文学書や通学時に読みやすい文庫本の小説など、とてもバラエティーに富んだ選書で、図書館の蔵書の足りない部分を教えてもらうことができました。

書店のバックヤードにも入れてもらい、「一日でこんなにたくさんの雑誌が届くんだ!」など、ふだん見ることのできない光景も喜んでもらえました。

また、棚から持ってきた本を引率の図書館職員が見て「この本はもう図書館にありますよ」と伝える場面も多く、特に各学科の研究内容に直結するような本は藤の図書館にかなり入っていると感じてもらえたかと思います。

選んだ本が図書館に入ってきたら最初に借りられることとし、読んだものの中から紹介ポップを作ってくれるようにお願いしました。見た人が読みたくなるような素敵な作品ができてきました。現在両館で本と一緒に展示していますので、未見の方はぜひご覧ください。

参加者からは「楽しかった!」という感想も聞かれ、今年も実施したいと考えています。決まりしだい案内を出しますので、興味のある方は奮ってご参加ください。図書館では通年で“学生購入希望”として、館内購入希望コーナーやOPACの **新規購入希望** アイコンからリクエストの受付もしていますので、こちらも活用していただき、よりいっそう充実した図書館を目指していきたいと思ひます。



土曜日の選書ツアーで選ばれた本

選書ツアーに参加した皆さんから、感想をいただきました。

文学部 文化総合学科3年 叶田さんより

私は選書ツアー参加者募集のポスターを見て、自分で本屋さんを歩いて好きな本を選んでいいなんて、と思い参加申し込みをしました。当日は三省堂書店にて集合し、荷物を預けたら早速選書開始。もともと狙っていた文庫本から手に取っていききました。自分が読みたい本だけでなく、読んでほしい本としても選べるのが面白かったです。残念だったのはその時店舗にある本しか購入できないこと。取り寄せなどができるともっといいなと思いました。時間は2時間ありましたが、あっという間に過ぎていきました。蔵書確認、在庫確認に意外と時間をとられます。予算分選びきれなかったのが悔しいですね。楽しい企画でした。ぜひ第2回目も開催してください。



人間生活学部 食物栄養学科3年 開澤さんより

私は選書ツアーに参加し、自分の本当に読みたい本が選べる楽しさを実感しました。大学の図書館内にも読みたい本がたくさんありましたが、中でも私はゼミの研究に使うパンの本をもっと充実させたいと思いました。ツアーではパンの本を中心に7冊の本を選ばせていただきました。本を選ぶ際にはじっくり吟味して選んだり、時には自分の直感で選んだ本もありました。ツアー後には選んだ本のポップの作成を行いました。自分の本当に読みたい本を、ポップの作成を通じてたくさんの人に紹介できる喜びも感じました。普段経験することのできない貴重な経験をさせていただき、非常に充実した内容のツアーでした。



大学院 人間生活学研究科 食物栄養学専攻 安田さんより

選書した本はいくつかありますが、大きく分けて2種類です。

1つめは、パソコンを使いこなすための内容のものです。私は自分が現在抱えている修士論文に活用することももちろん、学生生活でパソコンに関する内容が書かれている本があることを知ってもらえたらと思いつくか選びました。

2つめは、テレビドラマで気になっていた俳優さんが書いたエッセイを選びました。

自分が読みたい、奨めたい、本を母校に残せる選書ツアーはとても有意義な機会でした。ありがとうございました。



2017年度も選書ツアーなどのイベントを開催する予定です。
みなさんのご参加お待ちしております！



選書ツアー選定本 16条展示風景



選書ツアー選定本 花川展示風景

石狩市の中学生を受け入れしました

花川館では、地域貢献の一環として石狩市の中学校から職業体験の受け入れを行っています。今年度は職業体験が2校、また、調べ授業の一環としてガイダンスを実施させていただいた1校、合計3校を受け入れしましたので、内容をご紹介します。

職業体験

花川南中学校 10月27日(木)

樽川中学校 11月 1日(火)～2日(水)

今年度は2校の受け入れをしました。実習の期間が学校によって一日違いますが、基本的には本の貸出・返却など表から見えるお仕事のほか、配架・整齊(本を棚に戻したり、正しい順番に並べ直したりする作業)、本の修理・装備の体験、レファレンスサービスやガイダンス業務などの説明を聞いていただきました。

中学生の皆さんは真剣に話を聞き、業務に取り組んでいました。緊張しながら本の貸出をしてきている様子を、本を借りに来た学生さんがにこにこしながら見守っている微笑ましい一場面もありました。



カウンターでのお仕事を体験中です



長く大事に使うために、本の修理も必要です



順番通りに並んでいるか確認中

2校のうち、2日間体験していただいた樽川中学校の皆さんから最終日に職業体験の感想をいただきました。

この職場体験では、本を運んだりするときに力が必要なこと、カウンター業務では人としっかり話すことなど自分がありできないことがありました。このことは今後の生活にも生かしていけるのでとても貴重な体験になりました。

新井さん

今回、大学図書館という場所で職場体験をさせてもらい、色々な知識を学びました。2日間という短い期間でしたが、その2日間の中で、本の直し方や配架・整齊などをわかりやすく教えてもらい楽しく仕事をすることができました。

大崎さん

今回、初めて見る大学で二日間職場体験をさせていただき、ありがとうございました。図書館を最初に見たとき、とても広くて驚きました。それなのに本が綺麗にしまわれていて、皆さんの努力が解りました。

とても貴重な体験をありがとうございました。

北本さん

ガイダンス実施 ^{しゅぶ} 聚富中学校 10月31日(月)

石狩の聚富地域に関する調べ学習の一環ということでご依頼をいただき実施しました。大学図書館について案内を兼ねてご説明した後、インターネットや新聞記事データベースを使った情報の見つけ方などをパソコンで体験していただきました。そのあと、本学所蔵の石狩に関連する資料を手にとってもらいました。



花川館の中学生の受け入れだけでなく、石狩市民への図書館開放、昨年度開始した高校生向けオープンライブラリーなど、今後も地域貢献に取り組んでまいります。

花川館エリア分け開始のお知らせ

2017年1月11日（水）より、花川館の2階（カウンターのあるフロア）をアクティブ・ラーニング・エリアとする試行運用を開始しました。

アクティブ・ラーニング・エリアとは？

○図書館内でディスカッションが可能に！

図書館資料を使って話し合いながら学修することはもちろん、プレゼン、絵本の読み聞かせ等の予行演習の場所としても使えます。少人数のゼミ等授業でのご利用も歓迎します。

○のり・はさみ等の文房具が利用可能に！

授業の課題（発表ポスター等）も、大きな机に広げながら制作できます。

○机、椅子を自由に動かせます！

一部、可動式の机と椅子、ホワイトボードを導入しました。ご利用の人数に合わせて、自由に組み合わせてご利用いただけます。

○ノートパソコン、プロジェクター等の機器をご利用いただけます！

カウンターでノートパソコン5台、プロジェクター・スクリーンの利用を受付しています。日時が決まっている場合、予約も可能です。

3Fサイレント・エリアでは従来通り静かな環境で学修できるエリアとしています。2Fにあった一人掛け机は全て3Fに移動しました。ご不明な点等ありましたら、花川館カウンターまでお問い合わせください。



机・椅子等をご自由にお使いください



授業や個人指導でのご利用も大歓迎です

図書館委員会からのお知らせ

オープン・ライブラリーについて

昨年度、新たな試みとして大学の夏季休暇期間中（2016年8月6日～9月15日）に夏休み期間限定オープン・ライブラリーを、第2回目として春休み期間限定オープン・ライブラリー（2017年2月20日～3月31日）を開催しました。対象は女子高校生で生徒手帳を持参し簡単な手続きで利用ができるようにしました。なお資料の貸出は行いませんでしたが、利用された女子高校生からは、静かで勉強に集中でき快適な環境であったこと、本の種類や冊数が多いこと、視聴覚資料が利用できることなど、また是非利用したいとの感想をいただきました。今年度の詳しい日程につきましては、大学図書館のホームページをご覧ください。

絵本・児童書を「見」てみましょう

文化総合学科 平井 孝典

リンドグリーンには大塚勇三訳がある。大塚はドイツ語風にケルスティン、と初版で表記していたが、これ以外の点で言う

ことはない。正確な訳、こなれた日本語で読める。でも一歩進んで、例えば『ボダイジュがかなでるとき』(Astrid Lindgren, Spelar min lind sjunger min



リンドグレンの著作 (スウェーデン語)

näktergal, 1959) の原文を見てみよう。冒頭に、…fattigdomens… (…貧乏人小屋の…) とある。たしかに、「貧しいこと」と英語の fatigue (疲労) のような単語には関連がある。その他、疾病の用語などの使われ方は興味深い。原文はながめるだけでも「発見」がある。スウェーデン語使用者の「意識」に少しだけ近づける。

2016年度、藤女子大学図書館が各国語の絵本・こども向け図書をたくさん所蔵するようになった。あまり目にしたことのない本を手にとって、学生のみなさんがそれぞれの関心を広げてほしい、というのが一つの理由である。

1年生のレポートを見てみると、ときどき、「北海道も多文化社会になって」という文言をみる。そうではなく、北海道はも



とも多言語多文化社会。それなのに社会的経験を積極的に共有してこなかった。そろそろ公立図書館も多文化社会対応を本格化させるだろう。す

ぐにできることとしては少しでも「本を揃えること」である。藤女子大学で学ぶみなさんに、とりあえずサンプルをお見せしよう、これが所蔵するようになったもう一つの理由である。



『海底二万里』(フランス語)



『お正月の晴れ着』(韓国語)



アラビア語の絵本



『ブルンミとアンパンニ』シリーズ (ハンガリー語)



ベトナム語の絵本

● 編集後記 ●

図書館だより93号をお届けいたします。

今号が発行されるまでの間、図書館ではいろいろな変化がありました。それを盛り込んだ内容となっています。

花川館ではフロアに新しい机や椅子を用意して、アクティブ・ラーニング・エリアを作りました。みなさんの学びを多様な形で行うことが出来る場所となっています。

また、昨年になりますが「選書ツアー」を行い、学生さんが主体となって資料の選定に当たりました。今年度も行う予定ですので、記事をみて参考にさせていただきたいと思っております。

そして、図書館のシステムが変わりました。みなさん、OPACの画面が変わっているのに気付いたでしょうか？ 新しい画面を実際に触ってみて、より身近に感じてみてください。(k.k.)



図書館キャラクター
「きしんさん」

藤女子大学 図書館だより 第93号 2017.3

発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770

<http://www.fujijoshi.ac.jp/library/>